

# 芸劇 BUZZ

TOKYO METROPOLITAN THEATRE EVENT INFORMATION

vol.5 2013  
10.11.12.



特集・PICKUP

NODA・MAP

「MIWA」制作発表ルポ

フェスティバル/トーキョー 13

ジョゼ・モンタルヴォ

「トロカデロのドン・キホーテ」

イサンゴ・アンサンブル

「プッチーニのラ・ボエーム Abanxaxhi」

エル・システマ・フェスティバル 2013

in TOKYO

インバル=都響 新 マーラー・ツィクルス

東京芸術劇場 芸術監督

野田秀樹

座談会

キャサリン・ハンター&グリーン・プリチャード&マルチェロ・マーニ

S.スクロヴァチェフスキ&読売日本交響楽団

ブラスウィーク 2013

バーミンガム市交響楽団 他

CALENDAR

10月・11月・12月

REPORT

回遊DeArt 2013

TACT/FESTIVAL 2013

「ストリッパー物語」

# NODA・MAP第18回公演『MIWA』制作発表ルポ



宮沢りえ



瑛太



井上真央



小出恵介



浦井健治



青木さやか



池田成志



古田新太

## 異能の人の半生を鏡に、日本の戦後を照らし出す。

空前絶後と形容される豪華キャストが揃ったNODA・MAPの新作『MIWA』。

宮沢りえ、瑛太、井上真央、小出恵介、浦井健治、青木さやか、池田成志、古田新太と、主役級がずらりと揃う。

彼らが演じるのは美輪明宏の人生。野田秀樹が初めて扱う“生きている有名人”だ。

戦争、芸術、同性愛、歌など、様々なキーワードが浮かび上がる異能の人をモチーフに野田が描くものは？

8月22日に行われた制作発表をレポートする。

### 少年の目を通して世界を描く

制作発表では最初に美輪明宏からのコメントが映像で紹介された。「今まで、漫画家だとか小説家だとか、いろんな方が(自分の半生を作品にしたいと)おっしゃってくださったんですけど、私も『紫の履歴書』って自叙伝を出してますから、それだけで結構ですってお断りしてきたんですよ。ところが

野田さん(が舞台化したいと希望している)と聞いて、またあの悪戯小僧が、と思って(笑)。それだったら、どんな減茶苦茶な出鱈目にされてもおもしろいんじゃないかしらって(OKを出した)」  
美輪の自宅で撮影された映像の表情と口調からは、本物の美や才能を見極める厳しい目を持つ美輪が、同じクリエイターとして野田を信頼していることが伝わってきた。

続いて紹介されたのは役名とそれぞれの意気込み。コメントは次の通り。MIWA役の宮沢りえは「野田さんとお仕事させていただく時は、台本を読んですぐに道が見つかるわけではなくて、稽古をしてみないと時間を費やしていくうちに、段々と出来上がっていくんです。美輪さんという怪物を演じるに当たって、今、プランみたいなものはゼロですが、すごく心強いメンバーです。野田さん

を信じているので、お稽古の中でいろんなものを見つけていきたいと思います」。幼恋繋一郎(おさなごいけいいちろう)役の瑛太は「以前からワークショップには何度か参加していましたが、とても居心地がよく、かつ刺激的で、いい時間を過ごせたなあと思っていました。今回、出演させていただくことができうれしく思っていますが、気負わずやっていけたらと。あと、宮沢りえさんとドキッとするようなシーンがあるようなので、最後までドキドキしたいなあと思ってます(笑)」。

聖母マリア役の井上真央は「野田さんのワークショップには、16、17歳の時に参加させていただいたんですけど、それから今までの10年間はほとんど映像を中心にやらせていただいたので、その私が舞台の世界、NODA・MAPの中でどこまで通用するかちょっと恐くもあり、楽しみでもありますね」。通訳役の小出恵介もワークショップ経験組で「僕も以前から5、6度参加させてもらっているんですけど、(それでも声がかからないので)出演に関しては諦めてました。だから今回の参加がすごく嬉しいです。そして台本を少し読んで、野田さんに役を書いていただくということが改めて感慨深かったです。ただ、職業がそのまま役名で。もうちょっとこう、不思議な役名が欲しかったですね(笑)」。

やはり職業が役名のボーイ役の浦井健治は「自分がまさかNODA・MAPに出られると思っていなかったんで驚いています。ワークショップでは美輪さんの

自叙伝を使って、皆で創作をしたんですけど、それがものすごく面白くて。そのメンバーでまたやっていけるのはすごく幸せに思います」。負け女役の青木さやかは、野田に直接「NODA・MAPに出たい」と伝えての登板になった。「それでワークショップに呼んでいただいたんですが、小出さんが出るのを諦めていたとおっしゃるぐらいですから、私なんかもっと諦めていたんです。何しろ私はファンのひとりみたいな感じだったりするので。今回出させてもらえるのが、嬉しい反面、不安もすごく大きいです。日向陽気(ひなたようき)役の池田成志は「THE BEE」ジャパニーズ・バージョンで何役もこなしたが「今回も同じようなもので(明確な役名はひとつだが)、キャスト表を見たらまた膨大な役が……。それだけで台本を読むのいやになっちゃいました(笑)」。

アンドロギヌス役で、NODA・MAP作品には野田に次いで最多出演しているという古田新太は「空前のキャストで仲良く年末まで行けたらいいなって思ってるくらい(緊張はない)。1回目の食事はいつにしようかな」と余裕を見せた。

さて内容は、キーワードのひとつが“少年時代”らしい。野田は言う。「美輪さんはいつの時代も周囲に流されず、ズバツと真理をつかんでしまう。どうやってそういう人間が育ったのか、ご本人は“生まれ育ったのが長崎の遊郭の裏で、あらゆる種類の人間を見て来た。そこで人間を見る目が養われ

た”と語られていましたけど、『MIWA』でも少年が見る周りの世界を大事にしようと思っています」。

神話と組み合わせるなどして繰り返し少年をモチーフにした野田が、美輪の半生と出会い、刺激的なキャストにインスパイアされ、新たな少年時代を描く。それは個人史の姿を借りた日本史となるはず。やはり見逃すわけにはいかない。

取材・構成：徳永京子



野田秀樹

### NODA・MAP 第18回公演『MIWA』

**東京公演**  
2013年10月4日(金)～11月24日(日)  
東京芸術劇場 プレイハウス  
主催：NODA・MAP  
共催：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

**大阪公演**  
2013年11月28日(木)～12月1日(日)  
シアターBRAVA!

**北九州公演**  
2013年12月6日(金)～12月8日(日)  
北九州芸術劇場 大ホール

公演に関するお問合せ  
NODA・MAP 03-6802-6681  
www.nodamap.com/miwa

詳細はP111-P14へ

# F/T13 物語を旅する

フェスティバル/トーキョー



F/T12「F/Tモブ」東京芸術劇場ロワー広場 ©Ryosuke Kikuchi

## フェスティバルが変える日常。 芸劇+池袋で、アートを楽しみ、新世界に出会う。

「アッ」と思ったその瞬間から、新しい世界が目の前に開ける——。この秋、東京芸術劇場を中心に池袋全域に展開する舞台芸術の祭典フェスティバル/トーキョー13(F/T13)。それは、私たちの日常に風穴を空け、その感性と思考を掘り起こす刺激的なイベントだ。

会場を訪れた人はまず、芸劇のアトリウムに出現した奇怪な巨大構造物に目を奪われるだろう。2001年の横浜トリエンナーレに全長50メートルのバツタを出品し話題を呼んだ現代美術家、椿昇が、F/T13の象徴として製作したオブジェ。そのモチーフは、ノーベル賞作家、エルフリーデ・イェリネクが3.11後の現実に取り組んだ戯曲『光のない。』シリーズ(その最新作『光のない。(プロローグ?)』が2バージョンで上演予定)だ。『声のない。』と題されたこの作品を前に、あなたは誰の、どんな声に想いを思い起こすだろう。

昨年、芸劇と池袋西口公園で展開され、注目を集めた一般参加型の群衆パフォーマンス「F/Tモブ」もパワーアップして再登場(「F/Tモブ・スペシャル」)。今回は近藤良平(コンドルズ)、三浦康嗣(フチコロ)をはじめとする4人の人気振付家、アーティストが、参加者と共に池袋の街へ繰り出す。互いになんの関係もなさそうに見えた通行人たちが、いっせいに息を合わせて動き始

め、軽やかに街の風景を描きかえる様子は見るだけでも愉快。でも、さらに思い切って身体を動かせば、未体験の感覚、快感に出会えそうだ。

もちろん、劇場内で鑑賞する舞台作品も充実。今回は「物語を旅する」をテーマに私たちが暮らす、都市「東京」を題材にした演劇や日本の古典戯曲の現代版、演劇の虚構と現実の関係を考察する先鋭的な作品がプログラムされている。新しい楽しみと思索へと私たちが案内するフェスティバル。その扉は誰の前にも開かれている。

構成・文：鈴木理映子

**F/T13** トーキョー発、舞台芸術の祭典  
フェスティバル/トーキョー

### 物語を旅する

2013(平成25)年11月9日(土)~12月8日(日)

主催：フェスティバル/トーキョー実行委員会  
東京都/豊島区/アーツカウンシル東京・東京文化発信プロジェクト室・  
東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)/公益財団法人としま未来文化財団/  
NPO法人アートネットワーク・ジャパン  
協賛：アサヒビール株式会社、株式会社資生堂  
助成：公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団  
平成25年度文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ

<http://festival-tokyo.jp/>

Pick Up!

今、私たちが共有できる物語とは？ 物語をつくることの意味とは——？  
さまざまな視点から「物語」を考えるF/T13のラインナップから、おすすめの2作品を紹介！

リミニ・プロトコル『100%トーキョー』

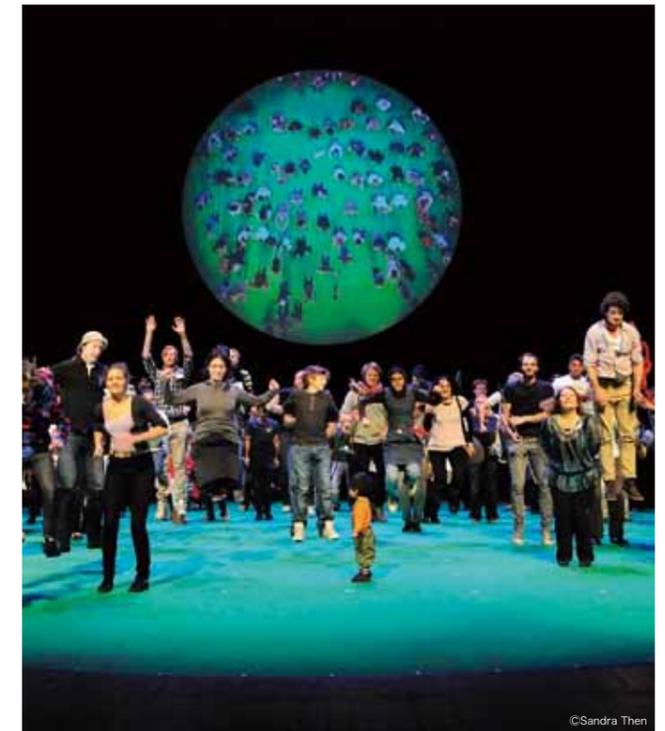
11月29日(金)~12月1日(日) プレイハウス

詳細はP14へ

### 100人の市民への 生アンケートが描き出す、 現代の「トーキョー物語」

荷物に見立てた観客をトラックで輸送し、物流業界の競争や規制、グローバル経済の功罪を体感させるツアーパフォーマンス「Cargo Tokyo-Yokohama」(F/T09秋)など、丁寧なリサーチと現実の事象を利用し、現代社会とそこに生きる人々の実像に迫るアート・プロジェクト・ユニット、リミニ・プロトコル。世界中の都市で数々のプロジェクトを展開する彼らが、4年ぶりに東京でのクリエイションを行う。

本作『100%トーキョー』は、東京都の人口統計(性別、居住地など)に基づいて集められた100人の市民が、舞台上でのYES/NOアンケートに答えるというもの。彼らはさまざまな質問に従って舞台上を移動し、時にマイクに向かい自らの半生を語り出す。いわば「動く意識調査」でもあるその眺めは、私たちが暮らす都市を改めて知るきっかけとなると同時に、いまだ出会わぬ多くの隣人の存在を思い起こさせるものともなりそうだ。



©Sandra Then

バック・トゥ・バック・シアター『ガネーシャ VS. 第三帝国』

12月6日(金)~12月8日(日) プレイハウス

詳細はP15へ



©Jeff Busby

### インドの神様のスリリングな冒険。 その波乱含みの上演の行方は——

ナチス(第三帝国)に奪われた幸せの印「卍」を取り返すために旅に出たインドの神・ガネーシャ。そのスリリングでファンタジックな物語は、それを演じる劇団内のいざこざによって、たびたび中断されてしまう。演劇の約束事にしたがいが、無事に上演を運ぼうとする演出家と、それに抵抗を示す俳優たち。ユーモアあふれる彼らのやりとりは、時に笑いさえ誘いつつ、フィクションの「常識」を疑い、現実との関係を見直す機会を与えてくれる。

バック・トゥ・バック・シアターは、実際に知的障がいを持つ俳優たちと共に設立された劇団。映像や照明を巧みに使ったイメージ豊かな空間づくりや、生命や美の基準をめぐる哲学的なテーマ設定でも知られている。中でもファンタジーの世界と現実とを同時に見通し、よりいっそう豊かな演劇空間へと昇華させた本作は、これまでに計7カ国上演された話題作。そのアジア初演をぜひ目撃しておこう。



©Jeff Busby

パリ国立シャイヨー劇場 ジョゼ・モンタルヴォ「トロカデロのドン・キホーテ」

12月13日(金)~12月15日(日) プレイハウス

詳細はP15へ



José Montalvo Don Quichotte du Trocadéro

振付:ジョゼ・モンタルヴォ

現代のドン・キホーテはメトロに乗って現れる!?

原作はスペインの作家セルバンテスが1605年に上梓した小説で、正式タイトルは「奇想天外の郷土ドン・キホーテ・デ・ラ・マンチャ」。騎士道物語を読み過ぎた下級貴族が、自らを伝説の騎士だと思ひ込み、お供のサンチョ・パンサを連れて遍歴の旅に出るという物語。ドン・キホーテが風車に突進する場面はあまりにも有名だ。世界中で読み継がれているロングセラー小説を基にしたクラシックバレエの名作「ドン・キホーテ」(振付:マリウス・プティバ、音楽:レオン・ミンクス)にオマージュを捧げ、スペイン出身の振付家、国立シャイヨー劇場のダンス・ディレクターでもあるジョゼ・モンタルヴォが現代のパリに甦らせる。

クラシックバレエ、コンテンポラリーダンス、ヒップホップ、タップ、フラメンコ、アフリカダンスなど、ジャンルを超えた各種ダンスにスラップ

スティックコメディ、バーレスク、映像など多彩な要素をモザイクのように散りばめた、マジカルでスペクタキュラーなモンタルヴォ・ワールド。88年からダンサーのドミニク・エルヴェと共に活動してきたが、本作は単独で手掛けた作品で、バロックオペラ「レ・バラダン」から7年ぶりの来日公演となる。

愛すべきヒーローを演じるのは、TVや映画でも活躍するコメディアンのパトリス・ティボー。ドン・キホーテが愛馬ロシナンテにまたがって登場するのは、なんとパリのメトロ。投影される映像には、実際に地下鉄のホームなどで撮影したものが使われているという。13人のキュートなダンサーたちが舞台を駆け巡り、ポップでカラフルなパフォーマンスで存分に魅了してくれること請け合

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)  
東京都/東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)  
平成25年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業  
\*東京文化発信プロジェクト事業

イサング・アンサンブル「アバナヒ」<sup>アバナヒ</sup>「プッチーニのラ・ボエーム Abanxaxhi」

英語(一部コーサ語)上演・日本語字幕付き

12月19日(木)~12月22日(日) プレイハウス

詳細はP16へ



Isango Ensemble Puccini's La Bohème Abanxaxhi

演出:マーク・ドーンフォード=メイ

現代南アフリカが舞台、ソウルフルなオペラが誕生

世界各国で上演され続けている、イタリアオペラの名作「ラ・ボエーム」。1830年代のパリ、カルチェラタンで自由を謳歌し、芸術に身を捧げるボヘミアンたちを描いた青春オペラだが、このプッチーニの原作に新たな息が吹き込まれ、ダイナミックな新アレンジで南アフリカ版が誕生した。

ケープタウンを拠点に活動するイサング・アンサンブルは、イギリスの演出家マーク・ドーンフォード=メイがタウンシップ(アパルトヘイトで設けられた黒人強制居住区)出身の若い役者や音楽家たちと2006年に立ち上げたカンパニー。08年の初来日公演でも好評だった「魔窟」がイギリス舞台芸術界の最高栄誉、ローレンス・オリヴィエ賞最優秀リバイバル・ミュージカル作品賞を受賞したほか、輝かしい受賞歴を誇る。

時代を現代に、舞台をタウンシップに移し、その

土地で育った若者たちが演じることで「ラ・ボエーム」がヴィヴィッドに生まれかわった。タイトルの「Abanxaxhi」<sup>アバナヒ</sup>は、南アの公用語のひとつ、コーサ語で「ボヘミアン」の意だとか。プッチーニが手掛けた名曲にジャズやアフリカの伝統音楽をミックスし、マリンバとスティールパンの生演奏、ソウルフルな合唱とダンスで観客の心を揺さぶる。

ところで、同じく「ラ・ボエーム」がベースのミュージカル「RENT/レント」は1989年から90年代のNYが舞台。ヒロインの名前は「ミミ」が受け継がれたが、彼女が患う病いは結核からHIVに置き換わっている。イサング作品ではミミの病いは原作と同じ結核。それが過去のものでなく、いまなお身近な病気であることを訴えるため、途上国の感染症対策を支援する世界基金が本公演の大きな力になったことも付け加えておこう。

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)  
東京都/東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)  
共催:世界エイズ・結核・マラリア対策基金/  
公益財団法人日本国際交流センター(世界基金支援日本委員会事務局)  
平成25年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業  
\*東京文化発信プロジェクト事業

## 集まれ! 池袋みんなの大道芸

9月1日(日)~10月27日(日)の土日祝(9/28、9/29、10/12、13をのぞく) 劇場前広場、池袋西口公園 無料

### 9・10月のウィークエンドは劇場前が大道芸に染まる



東京都公認の大道芸人ヘブンアーティストのパフォーマンスで賑わいをみせる劇場前広場。様々な大道芸を楽しんでいただいています。そんな中、選りすぐりの大道芸人を集めた「集まれ! 池袋みんなの大道芸」が9月より開催中です。圧巻のアクロバット・パフォーマンス、妖艶なマジック、自由に駆け回る長足のウォーキングアクト

等、第一線で活躍するパフォーマーたちの魅力を味わいに、ぜひお越しください!



Booly Oooly Company



un-pa



ハッピーゴリラ



サンキュー手塚



マサトモジヤ



紙磨呂

お問合せ | 東京芸術劇場 事業調整係 03-5391-2116

主催: 東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)/豊島区  
助成: 平成25年度文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ

## チャレンジ広場2013

9月7日(土)~11月30日(土)の土日 劇場前広場 無料



### レッツ・プレイ・ジャグリング!!

大道芸と言えば真っ先に思い描くのが、沢山のボールを同時に投げ上げるジャグリング。「集まれ! 池袋みんなの大道芸」でおなじみのジャグリング教室「チャレンジ広場」を、引き続き開催中です。ぜひこの機会にジャグリングにチャレンジしてみませんか? タイミングが合えば、ヘブンアーティストによるストリートパフォーマンスが見られるかもしれません。どなたでも参加していただける「チャレンジ広場」に、ご家族、友人たちと、ぜひお越しください!

お問合せ | 東京芸術劇場 事業調整係 03-5391-2116 主催: 東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)/豊島区 助成: 平成25年度文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ

## ストリートアーティスト・アカデミー冬期

11月5日(火)~12月26日(木)の火木 リハーサルルーム、劇場前広場



### 大道芸パフォーマー育成講座、開講中

昨年より東京芸術劇場では、大道芸パフォーマーを対象にした講座「ストリートアーティスト・アカデミー」を開講しています。プロとして活躍する大道芸パフォーマーがさらなるレベルアップを目指し講座を受講中。開講期間中、火、木曜日の12時15分からは、劇場前で彼らのパフォーマンスを生でご覧いただけます。日々変化していく彼らのパフォーマンスにぜひご注目ください。

受講を希望するパフォーマーの方々は、劇場HPを要チェック!

お問合せ | 東京芸術劇場 事業調整係 03-5391-2116 主催: 東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)/豊島区 助成: 平成25年度文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ

## 立教大学との連携

東京芸術劇場と立教大学は連携して事業を展開しています。その一環として昨年に引き続き、陸前高田市を支援する立教大学の活動、及び現在の陸前高田市の情景を紹介する展示会を12月に開催いたします。詳細は劇場HPにて

## 観劇だけではもったいない!

### 芸劇のエデュケーションプログラム

公演に関連した事前レクチャーや、若手スタッフ、アーティストを対象にした講座など、年間を通して開催しています。情報は随時公開しておりますので、劇場HPやメールマガジンをチェックしてみてください! 皆様のご参加をお待ちしております。

# 音楽で未来は輝きだす エル・システマ・フェスティバル 2013 in TOKYO

～日本・ベネズエラ外交樹立75周年記念事業～

## 音楽界の奇跡「エル・システマ」の全貌が今!

21世紀のクラシック音楽シーンに大きな希望を与え、世界的なスター音楽家を輩出している音楽教育「エル・システマ」。ワークショップやコンサートなどが楽しめる3日間は、その秘密を探るチャンスだ。

主催：駐日ベネズエラ・ボリバル共和国大使館／東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)／一般社団法人エル・システマ ジャパン



エル・システマ・ユース・オーケストラ・オブ・カラカス

欧米諸国、そしてアジアがクラシック音楽シーンをリードし、その未来を占う鍵だと言われた20世紀。しかし21世紀になると意外なことに、南米のベネズエラが脚光を浴びる。その秘密を探るキーワードは「エル・システマ」。経済的な理由などから教育を受けられない子供たちに救いの手を差し伸べるべくスタートしたこのシステムは、無償で一流の音楽教育を受けながら人間的な成長も支援するという目的により、多くの子供たちを貧困や犯罪から救ってきた。

しかも今や世界のトップシーンに躍り出たグスター・ボドゥダメル(指揮者)や、ベルリン・フィルの楽員になったエディクソン・ルイス(コントラバス)などのスター音楽家も輩出して、その教育レベルが世界的に認められているのだ。もちろん先輩たちの活躍が、ベネズエラの子供たちに与えた希望は計り知れない。

この「エル・システマ」は、私たちにどんな喜びと興奮、そして未来への希望をプレゼントしてく

れるのだろう。その答えを見つけるのが、3日間にわたって開催される『エル・システマ・フェスティバル2013 in TOKYO』。多くの若い音楽家たちがステージ狭しと並ぶ「エル・システマ・ユース・オーケストラ・オブ・カラカス」の衝撃的なコンサートをはじめ、親子で楽しめるワークショップや、社会の中の音楽といったテーマを模索するシンポジウムなどを開催。東京芸術劇場がヴィヴィッドな「黄・青・赤」の3色(ベネズエラのカラー)であふれる音楽祭となる。

3日間、每晚行われる「エル・システマ・ユース・オーケストラ・オブ・カラカス」のコンサートは、フェスティバルのハイライトだ。まるでステージから人があふれるのではないかと思うほど、たくさんの音楽家たちが並ぶ光景はパワフルで圧巻。誰もが喜びに満ちた顔をしており、音楽を演奏することの意味さえ考えさせられるほど感動してしまうだろう。

しかし、その感動をさらに奥深いものにしたい

のなら、「エル・システマ」の奇跡がどうやって生まれたかを垣間見るワークショップやシンポジウムへ足を運び、疑似体験をしながら理解を深めることをおすすめしたい。楽器に慣れ親しむためのペーパーヴァイオリン作りや、エディクソン・ルイスをゲストに迎えてのトーク・イベント(どちらも見学可能)では、教育の一コマを見ることができ

る。また有識者をパネリストに迎え、社会の中における音楽教育や、福島県相馬市ですでに稼働している日本版エル・システマの現状、聴覚障害者のために考えられたホワイハンド・コーラス(歌うことのできない子供たちが、白い手袋をして合唱を楽しむという斬新なスタイル)など、多彩なプロジェクトについてのシンポジウムが行われる。シンポジウムは無料で事前申込不要。これからもさまざまな話題を提供してくれるであろう「エル・システマ」を、じっくりと体験する最高の機会となるだろう。

文：オヤマダアツシ

## インバル＝都響 新マーラー・ツィクルス 第II期 交響曲第6番～第9番

### インタビュー 録音プロデューサー 江崎友淑

## マーラーは聴衆の気配も音楽

マーラーの響きで鍛えられた東京芸術劇場で、インバルと都響の最後のツィクルスが大詰め。わずか2年のスパンでライブ収録に挑む録音プロデューサー江崎友淑が、新装芸劇とマーラーを素直に語った。



エアフ・インバル

### 再びマーラー録音に挑む

——再録音への経緯は。

インバルがチェコフィル音楽監督になったとき、フランクフルトで録音したマーラーの再録音が可能か、尋ねられた。20年も前で今と一緒のわけはないので、チェコと都響で録音しました。2年ほど前、来年からまたマーラーをやる、2年しか変わらないけど録音は、と。正直、キツイと思いましたが。そしたらインバルは、いや私は昨日言ったことと今日言うことは違う人間なんだ、証明する、と言う(笑)。そして、チェコフィルや都響で、テンポも違えばフレーズも違い、知らなかったような面白いアイデアが満載な音楽をやった。それで説得されました。インバルはマーラー指揮者として様々な引き出しがあり、自在に組合わせひとつの作品に出来る。誰も考えないような突飛な、けど理に適ったことをする。それと会場の気持ちを掴む方法、オケをリードする力。凄いですよ。

### ライブの方が音が良くなる

——東京芸術劇場は録音に頻繁に使われるのですか。

はい。芸劇が改装前後で大きく違うのは電源事情。ビルには蛍光灯の点滅ノイズなど山のようにある。改装前の芸劇はクリーン電源装置で綺麗

にしていたのですが、改装後はもともと綺麗な電源が取れるようになった。音の立ち上がりもふよよかさ質感も、山の水と浄水器ほどに違う。改装後は、すっきり感や遠近感を表現する微妙な手法も使えます。これほど条件の良いホールはありません。

——録音にとって聴衆は必要なのですか。

会場が静かなときでも空気感があります。今のデジタル録音は、人の可聴帯域の5倍の高さまで録音出来る。雰囲気や気配など、音に聞こえない大事な部分が録音可能になった。カラでスタジオ録音するより満員で録音した方が、耳に良く聞こえるのです。それにお客さんが雰囲気をつくる。マーラーの9番で80分余り、咳ひとつない時間をつくれたら、演奏も極上になる。最近のライブ録音は、聴衆も音楽作りに作用しているのですよ。今回はインバルと都響の最後と皆さん判っているので、客席の参加意識はひとしおです。

——9番は楽しみですね。江崎さんが芸劇に座るならどこですか。

ちょっと上がったところ(1LB、RB)が好きですね。でも録音として聴くのは違う。やはりメインマイクのある指揮者の上かな(笑)。

### 録音で気持ちを伝えたい

——まず1枚と思ったら、お薦めは。

1番ですね。静寂感、楽器の音の瑞々しさ、ライブの概念を超えたクオリティで自分でも驚きました。この2、3年はマーラーを沢山やり、去年、国際マーラー協会から表彰を受け、マーラーを今に残す意味を僕なりに考えました。で、この多種多様な時代に同じ事を同じようにやっても無意味だと思った。都響のマーラー全集がひとつあり、僕の知るオーケストラの録り方はそこで使い切った。今回は新たなマイク設定で違う音。自分の理屈の中できちんと目的と方向を決め別の捉え方をしたら、こんな様々な色になる。

——マーラーは名盤が沢山ありますね。

最近、マイブームはSPなんです。時代ごとに素晴らしいものがある。レコードファンとして、良いものは普遍だと思います。

——古い録音を聴くコツは。

有り難いと思って聴くこと。CDは針を落とさないから、バツと聴いて止めて、ハイ次、ってしちゃう。でもレコーディングは大変な労力があって成されたものです。その当時に一生懸命やった人の労働を感謝して聴く。僕としても、録音に入ってるものへの気持ちがなんとか伝えられないか、いつも考えてます。

取材・構成：渡辺 和



**Profile**  
江崎友淑 TOMOYOSHI EZAKI  
オクタヴィア・レコード代表取締役。クラシック音楽の制作プロデューサー、録音エンジニア、傑作コー・キャニオンで制作ディレクターとしてCDの制作を始める。1999年、オクタヴィア・レコードを設立。これまでに、ノイマン、アッシュケナーズ、小林研一郎をはじめ多くの指揮者や演奏家の録音を手掛けている。

詳細はP13へ

<p><b>ワークショップ</b> A、Cは見学可</p> <p><b>A ペーパーヴァイオリンを作ろう!</b> 10月11日(金)15:30-17:30(作ろう編) 10月12日(土)11:00-12:30(セッション編) 会場:シンフォニースペース 講師:須藤亜佐子 (エル・システマジャパン相馬プロジェクト弦楽器指導担当)</p> <p><b>B 12時間でシンフォニーの演奏に挑戦!</b> 10月10日(木)、11日(金)、12日(土) 統括アドバイザー:フランク・ディ・ボロ(エル・システマ創設メンバー)ほかを予定 対象楽器:各楽器2名ヴァイオリン、チェロ、フルート、クラリネット、ホルン、トランペット、トロンボーン</p> <p><b>C エディクソンと話そう!</b> 10月10日(木)16:30-17:30 会場:コンサートホール・エントランス(5F) ※ワークショップの参加申込受付は終了しました。 お問合せ:KAJIMOTO エル・システマ室 E-mail:efes@kajimotomusic.com ★メールの場合は件名を「エル・システマ・フェス問合せ」としてください。</p>	<p><b>シンポジウム</b> 事前申込不要・無料</p> <p><b>D エル・システマと社会問題</b> 10月10日(木)15:30-17:30 会場:シンフォニースペース パネリスト:フランク・ディ・ボロ(エル・システマ創設メンバー) (予定) 増田ユリキ(ジャーナリスト) 山田真一(『エル・システマ』著者) 佐藤正治(KAJIMOTO エル・システマ室室長)ほか</p> <p><b>E 日本におけるエル・システマ</b> 10月12日(土)15:00-17:00 会場:シンフォニースペース パネリスト:石川成幸(駐日ベネズエラ・ボリバル共和国大使) (予定) 菊川 穰(一般社団法人エル・システマジャパン代表理事) 山田真一(『エル・システマ』著者) 星 洋子(エル・システマジャパン相馬プロジェクトコーディネーター)ほか</p> <p><b>F ホワイハンド・コーラス</b> 10月12日(土)13:00-14:30 会場:シンフォニースペース 基調講演:松村真澄(ピースポート)</p>	<p><b>コンサート</b></p> <p>エル・システマ・フェスティバル 2013 in TOKYO ～日本・ベネズエラ外交樹立75周年記念事業～</p> <p>指揮:ディートリヒ・バレーデス(10/10、11)、 レオン・ポットスタイン(10/12) 管弦楽:エル・システマ・ユース・オーケストラ・オブ・カラカス コントラバス:エディクソン・ルイス(10/10) クラリネット:カリム・ソマサ(10/10) ピアノ:萩原麻未(10/11)</p> <p>10月10日(木)19:00開演 日本・ベネズエラ外交樹立75周年記念ガラ・コンサート</p> <p>10月11日(金)19:00開演</p> <p>10月12日(土)18:00開演</p>
--	---	---

詳細はP11へ

世界のマエストロシリーズvol.1 **S.スクロヴァチェフスキ&読売日本交響楽団 演奏会**

10月4日(金) 15:00開演 コンサートホール

詳細はP11へ



指揮:スタニスラフ・スクロヴァチェフスキ  
ピアノ:ペレント・グレンザー  
管弦楽:読売日本交響楽団

F.ショパン/ピアノ協奏曲第1番 ホ短調  
D.ショスタコーヴィチ/交響曲第5番 ニ短調

**名匠の深い音楽を堪能する新シリーズ**

2012年9月のリニューアルオープン後、「東京芸術劇場マチネシリーズ」「読響メトロポリタン・シリーズ」といったコンサートにより、ますます結びつきが強くなった読売日本交響楽団。10月からは新たに、名匠と呼ばれる指揮者を厳選して指揮台に招き、渾然一体となるような演奏を繰り広げる「世界のマエストロシリーズ」がスタートする。

その第1回目に選ばれたのは、読響ファンならおなじみの桂冠名誉指揮者スクロヴァチェフスキ。

2006年から2010年まで常任指揮者を務め、数々の刺激的な名演を聴かせてくれたのは記憶に新しい。プログラムのメインとなるのは、得意中の得意であるショスタコーヴィチの交響曲第5番。マエストロならではの作品に対する洞察力や鋭いアプローチで、神々しいまでの音楽が響き渡ることだろう。また初共演となるドイツのピアニスト、グレンザーとのショパンでは、堂々とした存在感のある演奏が期待できる。

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

東京芸術劇場 Presents **ブラスウィーク 2013**

10月9日(水) / 18日(金) 19:00開演、20日(日) 14:00開演 コンサートホール

詳細はP11～12へ



9日(水) 19:00開演  
ブラス・クインテット ウィーン=ベルリン  
18日(金) 19:00開演  
東京佼成ウインドオーケストラ 第116回定期演奏会  
20日(日) 14:00開演  
東京吹奏楽団 創立50周年 第60回定期演奏会

\*11月10日(日) プラスワークショップ開催  
バンドクニック「中・高生のための楽しい吹奏楽」

**豊かな管楽器の響きがホールを満たす3公演**

吹奏楽および管楽器ファンは聴きのがせないコンサートが、わずか2週間に3つも。2010年から回を重ね大好評の「ブラスウィーク」が、またこの秋もたくさんの聴き手を興奮させてくれる。まず最初に登場するのは、2つの名門オーケストラから選ばれた名手たちの「ブラス・クインテット ウィーン=ベルリン」。金管五重奏の輝かしさを堪能できるアンサンブルだ。日本のトップ吹奏楽団である東京佼成ウインドオーケストラは、日本

が誇るワーグナー指揮者、飯守泰次郎を指揮台に迎えてオール・ワーグナー・プログラムを披露。吹奏楽コンクール等でも演奏されることが多いため、注目すべきコンサートとなる。そして今年が創立50周年となる東京吹奏楽団は、日本の吹奏楽シーンに輝かしい足跡を残してきたマエストロ、汐澤安彦が指揮台に立つ。人気作曲家フィリップ・スパークが、楽団50周年を記念して作曲した新曲の初演も話題を呼ぶだろう。

主催:9日 プロ アルテマジック/18日 佼成文化協会、東京佼成ウインドオーケストラ/20日 一般社団法人 東京吹奏楽団 共催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

**前橋汀子 デイライト・コンサート**

11月14日(木) 11:30開演 コンサートホール

詳細はP13へ



ヴァイオリン:前橋汀子  
ピアノ:松本和将

シューベルト/アヴェ・マリア  
バッハ/G線上のアリア  
映画音楽メドレー～シェルブールの雨傘 ほか

**名手の演奏で充実したランチタイムを**

2012年に演奏活動50年を迎え、ますます充実した音楽を聴かせる前橋汀子。有名な協奏曲やヴァイオリン・ソナタなどの演奏と並行し、多彩な小品やメロディアスな映画音楽なども弾き続けてきたが、平日のランチタイム(11時30分スタート)に行われる「デイライト・コンサート」は、まさにそうした曲を楽しめる演奏会。クラシックを聴き慣れていない方でも安心して楽しめる珠玉の作品が次々と演奏される。気軽に音楽を楽しみた

い方、夜はなかなか外出できない方、友人などと誘い合わせてコンサートへ行きたい方、クラシックを聴いて自分を高めたいという方などには特におすすめ。近年は聴き手との距離が近くなるコンサートを積極的に行い、クラシック音楽ファンをもっと増やしたいという前橋が、ますます音楽的に充実している松本和将を共演者に迎え、コクのある音楽をじっくりと聴かせてくれるだろう。2,000円というチケット料金もうれしい。

主催:KAJIMOTO 共催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

東京芸術劇場& ミューザ川崎シンフォニーホール共同企画 **第4回音楽大学オーケストラ・フェスティバル**

11月23日(土・祝) / 12月8日(日) 15:00開演 コンサートホール

詳細はP14～15へ



指揮:北原幸男

指揮:マツミリアーノ・マテシッチ



指揮:川瀬賢太郎

指揮:山下一史

**未来の名手たちが集う音楽大学の祭典**

数多くの音楽家を輩出し、新しい才能の登場を期待されながら注目を集め続けている8つの音楽大学。毎年秋に、ミューザ川崎シンフォニーホールとの共同企画として行われている「音楽大学オーケストラ・フェスティバル」は、音楽家の卵たちにとって貴重な体験の場となるコンサートだ。各日とも2校が出演し、4日間で計8校。それぞれ指導を行っている教授らが指揮台に立ち、日頃の成果を披露する。このうち東京芸術劇場で行われるのは2日間

主催:音楽大学オーケストラ・フェスティバル実行委員会、ミューザ川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ)、東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

(4校)。11月23日には、北原幸男/武蔵野音楽大学がショスタコーヴィチを、マツミリアーノ・マテシッチ/昭和音楽大学がチャイコフスキーの交響曲を演奏。また12月8日には、東京音楽大学が卒業生である川瀬賢太郎を迎えてベートーヴェンを、山下一史/国立音楽大学がバルトークの難曲を演奏する。ミューザ川崎シンフォニーホールでの11月11日、12月1日(4校)と合わせ、新鮮な演奏が楽しめるはずだ。

**バーミンガム市交響楽団 演奏会**

11月21日(木) 19:00開演 コンサートホール

詳細はP14へ



指揮:アンドリス・ネルソンス  
ヴァイオリン:ヒラリー・ハーン  
管弦楽:バーミンガム市交響楽団

ワーグナー/歌劇「ローエングリン」から第1幕への前奏曲  
シベリウス/ヴァイオリン協奏曲 ニ短調 作品47  
チャイコフスキー/交響曲第5番 ホ短調 作品64

**21世紀のマエストロが描く新時代の演奏**

欧米で今もとても熱い視線を浴びている指揮者の一人、そして次々とCDもリリースされて世界的に注目されている新世代のマエストロ、アンドリス・ネルソンス。2008年に、かつてサイモン・ラトルによる黄金時代を築いたイギリスのバーミンガム市交響楽団へと迎えられ、音楽監督として充実した5年間を送ってきた。その成果が、次々と名門オーケストラが来日する今年の11月に披露されるのだ。東京芸術劇場でのコンサートは、バ

イロイト音楽祭に初登場した「ローエングリン」の前奏曲で幕を開け、来日のたびに音楽的な進化を聴かせてくれるヒラリー・ハーンとのシベリウスへ。さらにはチャイコフスキーの名作交響曲で、このコンビが21世紀の新黄金時代を迎えていることを証明するだろう。スコアを掘り下げるネルソンスの音楽作りは、これからのクラシック音楽シーンを占う指標かもしれない。ハーンとの共演も含め、俊英マエストロを知るチャンスだ。

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

パイプオルガンコンサート Vol.17 **光彩で綴るクリスマス**

12月18日(水) 19:00開演 コンサートホール

詳細はP16へ



オルガン:小林英之、川越聡子

D.クロムプ/コラール変奏曲「きよこの夜」  
O.メシアン/主の降誕  
～オルガンのための9つの瞑想～ ほか

**パイプオルガンが彩る芸劇のクリスマス**

東京芸術劇場のリニューアルオープンと共に、新企画や人気シリーズのグレードアップなどがいろいろ。ホールのエントランス空間で気軽に楽しめる「ティータイム・コンサート」、仕事帰りでも楽しめる「ナイトタイム・パイプオルガンコンサート」、劇場の名物企画「ランチタイム・パイプオルガンコンサート」といったシリーズは、チケット料金もリーズナブルであるため多くの音楽ファンに親しまれている。また、2時間の本格的プログラムを

じっくりと味わえる平日夜の「パイプオルガンコンサート」も、そのひとつ。この12月はおなじみの小林英之と新しくホールの副オルガニストとして迎える川越聡子が、オリヴィエ・メシアンの幻想的かつ色彩豊かな作品ほかを演奏し、クリスマスにふさわしいコンサートを行う。スクリーンや照明を活用するなどキリストの生誕を祝うちょっとした演出も予定されており、思い出に残る一夜になるだろう。

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30			
	金	土	日	祝	月	休	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
<b>Concert Hall</b>	<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>				<b>D</b>	<b>E</b>	<b>F</b>	<b>G</b>			<b>H</b>	<b>I</b>	<b>J</b>	<b>K</b>	<b>L</b>			<b>M</b>	<b>N</b>		<b>O</b>	<b>P</b>	<b>Q</b>	<b>R</b>				<b>S</b>			
<b>Playhouse</b>														<b>A</b>																	<b>B</b>		
<b>Theatre East</b>	<b>A</b>														<b>B</b>																<b>F</b>		
<b>Theatre West</b>	<b>A</b>													<b>C</b>		<b>D</b>															<b>F</b>		
											休 館 日																						

## Concert Hall

### A 2日(土) 14:00開演

明治ブルガリアオーケルト PRESENTS  
名曲の花束 ソフィア・ゾリステン&ミラ・ゲオルギエヴァ

**出演** ブラメン・デュロフ(Cond)/ミラ・ゲオルギエヴァ(Vn)/ソフィア・ゾリステン(Str)

**曲目** J.S.バッハ/G線上のアリア,主よ、人の望みの喜びよ、幻想曲 BWV.542 ドヴォルザーク/ユーモレスク パッヘルベル/カノン ホッケリーニ/メヌエット シューベルト/楽興の時〜第3番、アヴェ・マリア エルガー/愛のあいさつ サラサーテ/カルメン幻想曲、ツィゴイネルワイゼン クライスラー/愛の喜び マスネ/タイスの瞑想曲 ほか

**料金** S:5,000円/A:4,000円/B:3,000円

**TEL** チケットスペース 03-3234-9999

### B 3日(日・祝) 14:00開演

インバル=都響 新「マーラー=ツィクルスVI」  
「作曲家の肖像」シリーズvol.94

**出演** エリアフ・インバル(Cond)/東京都交響楽団

**曲目** マーラー/交響曲第6番「悲劇的」

**料金** S:7,500円/A:6,500円/B:5,500円/C:4,500円/Ex:2,800円

**TEL** 都響ガイド 03-3822-0727

### C 4日(月・休) 14:00開演

三井住友海上管弦楽団 第30回定期演奏会

**出演** 和田和樹 (Cond)/三井住友海上管弦楽団

**曲目** モーツァルト/交響曲第35番「ハフナー」

マーラー/交響曲第1番「巨人」

**料金** 2,000円

**TEL** 三井住友海上管弦楽団 事務局 090-4676-4738

### Playhouse

### A ~24日(日)

NODA-MAP 第18回公演 MIWA

**作・演出** 野田秀樹

**出演** 宮沢りえ/瑛太/井上真央/小出恵介/浦井健治/青木さやか/池田成志/野田秀樹/古田新太

**料金** 【全席指定】S:9,500円/A:7,500円/サイドシート:5,500円 \*25才以下の方は、東京芸術劇場ボックスオフィスのみ、サイドシート3,000円にてご購入いただけます。(入場時要証明書)

**TEL** NODA・MAP 03-6802-6681

### Theatre East

### A ~3日(日・祝)

L'Équipe (レキップ) vol.1  
秋のソナタ

**脚本** イングマール・ベルハイマン

**脚訳・台本** 木内宏昌

**演出** 熊林弘高

**出演** 佐藤オリエ/満島ひかり

**料金** 【全席指定】前売当日:8,200円/ステージサイド前売当日:7,800円

**TEL** チケットぴあ 0570-02-9111 (10:00～18:00)

### Theatre West

### A ~1日(金) 14:00開演

劇団文化座 GO

**TEL** 劇団文化座

03-3828-2216

### D 7日(木) 12:15開演

東京芸術劇場ランチタイム・パイプオルガンコンサート Vol.102

**出演** 英 貴子 (Org)

**曲目** J.S.バッハ/フーガ短調

ブクステフーデ/トッカータ短調 ほか

**料金** 【全席自由】500円

**TEL** 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

### E 8日(金) 19:00開演

立教大学交響楽団 第104回定期演奏会

**出演** 田尻真高(Cond)/立教大学交響楽団

**曲目** ベルリオーズ/幻想交響曲 ドリーブ/「 Coppelia」組曲 ウェーバー/歌劇「オベロン」序曲

**料金** S:1,500円/A:1,000円

**TEL** 立教大学交響楽団 チケット担当 080-5426-7506

### F 9日(土) 14:00開演

インバル=都響 新「マーラー=ツィクルスVII」  
「作曲家の肖像」シリーズvol.95

**出演** エリアフ・インバル(Cond)/東京都交響楽団

**曲目** マーラー/交響曲第7番

**料金** S:7,500円/A:6,500円/B:5,500円/C:4,500円/Ex:2,800円

**TEL** 都響ガイド 03-3822-0727

### G 10日(日) Closed・関係者のみ

東京芸術劇場 Presentsプラスウィーク2013  
バンドクリニック「中・高生のための楽しい吹奏楽」

**TEL** 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

\*詳細はHPをご覧ください。

### H 13日(水) 18:30開演

ザ・リアル・グループ コンサート

**出演** ザ・リアル・グループ

**曲目** スウェーデンポップス・ヒット曲メドレー

カウント・ベイシー・ジャズメドレー ほか

**料金** 5,000円

**TEL** MIN-ON インフォメーションセンター 03-3226-9999

### I 14日(木) 11:30開演

芸術共催事業

前橋汀子 デイライト・コンサート

**出演** 前橋汀子 (Vn)/松本和将 (Pf)

**曲目** エルガー/愛の挨拶 モーツァルト/メヌエット

ベートーヴェン/ヴァイオリン・ソナタ 第5番「春」より 第1楽章

シューベルト/アヴェ・マリア J.S.バッハ/G線上のアリア

クライスラー/愛の喜び

映画音楽メドレー:「ゴッドファーザー」より「愛のテーマ」・

「シェルブールの雨傘」ほか

サン＝サーンス/序奏とロンド・カプリチオーソ

ドヴォルザーク/ユモレスク マスネ/タイスの瞑想曲

サラサーテ/ツィゴイネルワイゼン

**料金** 2,000円

**TEL** カジモト・イーラス 0570-06-9960

### J 15日(金) 19:00開演

アマラウ・ピエイラ ピアノリサイタル

**出演** アマラウ・ピエイラ (Pf)

**曲目** J.S.バッハ/イタリア協奏曲 BWV971

シューベルト/12のドイツ舞曲D.790

ショパン/スケルツォ 第4番 ほか

**料金** S:4,500円/A:4,000円/B:3,500円

**TEL** MIN-ON インフォメーションセンター 03-3226-9999

## 東京芸術劇場ホームページ www.geigeki.jp

お問合せ | 東京芸術劇場  
ボックスオフィス **0570-010-296** [ 休館日を除く 10:00～19:00 ]

### K 16日(土) 14:30開演

東京ニューシティ管弦楽団  
第91回定期演奏会

**出演** 内藤 彰(Cond)/清水高師 (Vn)/東京ニューシティ管弦楽団  
**曲目** シベリウス/交響詩「フィンランディア」(シベリウスによる最終稿世界初演)、  
ヴァイオリン協奏曲、交響曲第2番

**料金** S:6,000円/A:4,500円/B:3,000円/C:2,000円/R(リラックスシート):3,000円/学生(S除く):半額/小中高生(S除く、保護者同伴):1,000円/シニア(60才以上):10%引き

**TEL** 一般社団法人東京ニューシティ管弦楽団事務局 03-5933-3266

### L 17日(日) 14:00開演

東京農業大学農友会管弦楽団  
第100回記念定期演奏会

**出演** 内藤佳有 (Cond)/東京農業大学農友会管弦楽団

**曲目** マーラー/交響曲第1番「巨人」

ヴァーグナー/歌劇「さまよえるオランダ人」序曲  
ヨハン・シュトラウス2世/ワルツ「ウィーン気質」

**料金** 600円

**TEL** 東京農業大学農友会管弦楽団 03-5477-2859

## M 19日(火)・20日(水) Closed・関係者のみ オカムラグラウンドコンサート2013

### N 21日(木) 19:00開演

東京芸術劇場 Presents  
バーミンガム市交響楽団 演奏会

**出演** アンドリス・ネルソンス(Cond)/ヒラリー・ハーン(Vn)/バーミンガム市交響楽団

**曲目** ワーグナー/歌劇「ローエングリン」から第1幕への前奏曲

シベリウス/ヴァイオリン協奏曲

チャイコフスキー/交響曲第5番

**料金** SS:16,000円/S:14,000円/A:10,000円/B:8,000円/C:5,000円/D:3,000円

**TEL** 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

### O 23日(土・祝) 15:00開演

東京芸術劇場&ミュゼザ川崎シンフォニーホール共同企画  
第4回音楽大学オーケストラ・フェスティバル

**出演** 北原幸男(Cond)/武蔵野音楽大学

マッシミリアーノ・マテシッチ(Cond)/昭和音楽大学

**曲目** ショスタコヴィチ/交響曲第10番

チャイコフスキー/交響曲第4番

**料金** 1回券:1,000円/通し券:3,000円(限定100セット)

**TEL** 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

### P 24日(日) 14:00開演

読売日本交響楽団  
第160回東京芸術劇場マチネーシリーズ

**出演** 上岡敏之(Cond)/アジュ・ランキ(Pf)/読売日本交響楽団

**曲目** プラムス/ピアノ協奏曲第2番、交響曲第3番

**料金** S:7,000円/A:5,000円/B:4,000円/C:3,000円/シユニア:1,500円

**TEL** 読売チケットセンター 0570-00-4390

### B 29日(金)～12月1日(日)

フェスティバル/トーキー-13 リミニ・プロトコル 100% トーキー-

**作・構成** リミニ・プロトコル

**演出** ダニエル・ヴェツツェル

**料金** 前売:4,500円/当日:5,000円 ほか

**TEL** F/Tチケットセンター 03-5961-5209(12:00-19:00)

### F 28日(木)～12月8日(日)

フェスティバル/トーキー-13  
チェルフィッチュ 現在地

**作・演出** 岡田利規

**出演** 佐々木幸子/

伊東沙保/南波 圭/

安藤真理/青柳いつみ/上村 梓/石橋志保

**料金** 前売:4,000円/当日:4,500円 ほか

**TEL** F/Tチケットセンター 03-5961-5209(12:00-19:00)

### F 30日(土)～12月8日(日)

フェスティバル/トーキー-13  
F/T13イェリネク連続上演 光のない。(プロローグ?)

**作** エルフリーデ・イェリネク **演出** 宮沢章夫

**出演** 安藤朋子/谷川清美/松村翔子/牛尾千聖/大場みなみ

**料金** 前売:4,000円/当日:4,500円 ほか

**TEL** F/Tチケットセンター 03-5961-5209(12:00-19:00)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
Concert Hall	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U										
Playhouse	A					B					C					D															
Theatre East				A						B					C																
Theatre West				A						B					C																

Concert Hall

**A** 1日(日) 14:30開演

東京フロイデ合唱団 第16回演奏会

**出演** 小松長生(Cond)／高橋絵里(Sop)／林美智子(Alt)／福井 敬(Ten)／宮本益光(Bass)／日本フィルハーモニー交響楽団／東京フロイデ合唱団  
**曲目** ベートーヴェン／「コリオラン」序曲、交響曲第九番「合唱」  
**料金** S:5,000円/A:4,000円/B:3,000円/C:2,000円/D:1,000円  
**TEL** 東京フロイデ合唱団 03-5940-0731

**B** 2日(月) 19:00開演

スローカー・トロンボーン四重奏団 結成40周年ファイナル・コンサート

**出演** 今村 能(Cond)／スローカー・トロンボーン四重奏団／フィルハルモニア多摩  
**曲目** ヴァーゲンザイル／アルト・トロンボーンのための協奏曲(ソロ:B.スローカー)／モーツァルト／「魔笛」序曲／ヴェルディ／「運命の力」序曲／ウェバー／ミュージカル「オペラ座の怪人」より／ニノ・ロータ／映画音楽メドレー  
**料金** 4,000円  
**TEL** プロ アルテ ムジケ 03-3943-6677

**C** 4日(水) 19:00開演

東京佼成ウインドオーケストラ 第117回定期演奏会

**出演** 渡邊一正(Cond)／東京佼成ウインドオーケストラ  
**曲目** オリヴァードティ／バラの謝肉祭／ホルスト／吹奏楽の為の組曲第1番／スパーク／希望の彼方へ-LOOLING UP, MOVING ON- デ=メイ／交響曲第1番「指輪物語」  
**料金** S:5,000円/A:4,000円/B:3,000円/C:1,000円【当日各席500円増】  
**TEL** 東京佼成ウインドオーケストラ事務局 03-5341-1155

Playhouse

**A** ~1日(日) 15:00開演

フェスティバルトキョー13 13%オフ100%トキョー  
**作・構成** リミニ・プロトコル  
**演出** ダニエル・ヴェツェル  
**料金** 前売:4,500円/当日:5,000円 ほか  
**TEL** F/Tチケットセンター 03-5961-5209 (12:00-19:00)

**B** 6日(金)~8日(日)

フェスティバルトキョー13  
**パケットウパクシター ガネーシャ VS. 第三帝国**  
**作・演出** ブルース・グラッドウィン  
**出演** マーク・ティーンズ／サイモン・ラフティ ほか  
**料金** 前売4,500円/当日5,000円 ほか  
**TEL** F/Tチケットセンター 03-5961-5209 (12:00-19:00)

12月	6日	7日	8日
14:00			●
15:00		●	
19:00	●		

**C** 13日(金)~15日(日)

パリ国立シャイヨー劇場 ジョゼ・モンタルヴォ トロカデロのドン・キホーテ  
**振付** ジョゼ・モンタルヴォ  
**料金** S:4,500円/A:3,500円/高校生割引1,000円/25才以下:3,000円/65才以上:4,000円 /「トロカデロのドン・キホーテ&「ブッチーニのラボエーム Abanxaxhi」セット券 S:8,400円  
**TEL** 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

12月	13日	14日	15日
14:00	●	●	●
19:00	●		

Theatre East

**A** ~8日(日)

フェスティバルトキョー13 チェルフィッチュ 現在地  
**作・演出** 岡田利規  
**出演** 佐々木幸子／伊東沙保／南波 圭／安藤真理／青柳いづみ／上村 梓／石橋志保  
**料金** 前売:4,000円/当日:4,500円 ほか  
**TEL** F/Tチケットセンター 03-5961-5209 (12:00-19:00)

**B** 11日(水)~13日(金)

五十田安希ひとり芝居 語りかけるハムレット  
**作** シェイクスピア **訳** 三島由紀夫  
**脚本演出** 吾妻 正 **出演** 五十田安希  
**料金** 【全席指定】前売:4,000円/当日:5,000円  
**TEL** 五十田安希事務所・劇団栞の実 03-3710-6607

**C** 16日(月) 19:00開演

三沢恵子ダンスリサイタル 女の情景—シンデレラ編—  
**出演** 三沢恵子  
**料金** 【全席自由】前売:4,000円/当日:4,500円  
**TEL** 三沢恵子 042-341-3143

12月	11日	12日	13日
14:00		●	●
19:00	●	●	●

Theatre West

**A** ~8日(日)

フェスティバルトキョー13 F/T13イェリネク連続上演 光のない。(プロローグ?)  
**作** エルフリーデ・イェリネク  
**演出** 宮沢章夫 **出演** 安藤朋子／谷川清美／松村翔子／牛尾千聖／大場みなみ  
**料金** 前売:4,000円/当日:4,500円 ほか  
**TEL** F/Tチケットセンター 03-5961-5209 (12:00-19:00)

**B** 11日(水)~15日(日)

あとは野となれ山となれ  
**脚本** 水谷龍二  
**演出** 高瀬久男  
**出演** 竹下景子／宇梶剛士／岸田 茜  
**料金** 【全席指定】前売:5,000円/当日:5,500円/シニア:4,500円  
**TEL** トム・プロジェクト 03-5371-1153

**C** 16日(月) 19:00開演

三沢恵子ダンスリサイタル 女の情景—シンデレラ編—  
**出演** 三沢恵子  
**料金** 【全席自由】前売:4,000円/当日:4,500円  
**TEL** 三沢恵子 042-341-3143

12月	11日	12日	13日	14日	15日
14:00		●	●	●	
19:00	●	●	●	●	●

東京芸術劇場ホームページ www.geigeki.jp

お問合せ 東京芸術劇場 ボックスオフィス 0570-010-296 [ 休館日を除く 10:00~19:00 ]

音楽略号:指揮(Cond)／ソプラノ(Sop)／メゾ・ソプラノ(M.Sop)／アルト(Alt)／テノール(Ten)／バリトン(Bar)／バス(Bass)／コーラス(Chor)／ヴァイオリン(Vn)／サクソフォーン(Sax)／ピアノ(Pf)／チェンバロ(Chemb)／オルガン(Org)

**K** 15日(日) 14:00開演

G・Dream21 with 3人のお客さまで贈るピクリスマス

**出演** 坂本和彦(Cond)／G・Dream21、中島啓江、江原啓之、渡辺真知子  
**曲目** ラヴェル／ボレロ ピアソラ／リベルタンゴ ほか  
**料金** S:4,000円/A:3,000円/B:500円  
**TEL** としまみらいチケットセンター 03-3590-5321

**L** 18日(水) 19:00開演

東京芸術劇場パイオルガンコンサートVol.17 光彩で綴るクリスマス

**出演** 小林英之、川越聡子 (Org)  
**曲目** クロムプ／コラル変奏曲「きよしこの夜」メシアン／『主の降誕』～オルガンのための9つの瞑想～ ほか  
**料金** 【全席指定】2,500円/ペア券:4,000円/25才以下:1,000円  
**TEL** 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

**M** 19日(木) 19:00開演

日本フィルハーモニー交響楽団 「第九交響曲」特別演奏会2013

**出演** 小林研一郎(Cond)／長井浩美(Org)／市原 愛(Sop)／清水華澄(Alt)／錦織 健(Ten)／青戸 知(Bar)／東京音楽大学(Chor)／日本フィルハーモニー交響楽団  
**曲目** J.S.バッハ/トッカータとフーガBW565(オルガン・ソロ)、G線上のアリア(オルガン・ソロ) ベートーヴェン／交響曲第9番「合唱」  
**料金** S:8,500円/A:7,500円/B:6,500円/C:5,500円/＼s:3,500円/Gs:4,500円  
**TEL** 日本フィルサービスセンター 03-5378-5911

**N** 20日(金) 19:00開演

読売日本交響楽団 第4回 読響メトロポリタン・シリーズ

**出演** デニス・ラッセル・テイヴィス(Cond)／木下美穂子(Sop)／林美智子(M.Sop)／高橋 淳(Ten)／与那城 敬(Bar)／新国立劇場合唱団／読売日本交響楽団  
**曲目** ベートーヴェン／交響曲第9番「合唱付き」  
**料金** S:9,000円/A:7,000円/B:5,000円/C:3,000円  
**TEL** 読響チケットセンター 0570-00-4390

**D** 19日(木)~22日(日)

イザンゴ・アンサンブル ブッチーニのラ・ボエーム Abanxaxhi アバナヒ  
**演出** マーク・ドーンフォード=メイ  
**料金** S:6,000円/A:4,500円/高校生割引:1,000円/25才以下:2,500円/65才以上:5,500円 /「ブッチーニのラ・ボエーム Abanxaxhi&「トロカデロのドン・キホーテ」セット券 S:8,400円  
**TEL** 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

12月	19日	20日	21日	22日
14:00		●	●	●
18:30	●	●	●	

**C** 16日(月)~25日(水)

アトリエ・ダンカン×ブルミエ・インターナショナルプロデュース On The Stage—クランク★イン—  
**作・演出** 増田久雄  
**出演** 別所哲也／新妻聖子／SUITE VOICE／モーガン・フィッシャー(演奏)  
**料金** 【全席指定】前売当日:7,000円/モーガンズライブ(12/20日19:00開演、23日18:00開演):3,000円  
**TEL** アトリエ・ダンカン 03-3475-0360

12月	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日
13:00						●	●	●		
14:00		●							●	●
18:00						●	★			
19:00	●	●	●	●	★				●	

★=モーガン・フィッシャーによるスペシャルライブ

休館日 9日(月)・28日(土)~31日(火) ※28日のみ一部開館

休館日の施設のご利用案内及びお電話でのお問合せ受付は行っておりません。また、館内店舗(一部店舗を除く)は閉店しておりますのでご了承下さい。 ※原則未就学児のご入場はお断りしています。 ※プログラム、出演者等に変更が出る場合がございます。 ※最新情報は、各お問合せ先までご確認ください。

**R** 24日(火) 14:00開演 コンサートホール・エントランス5F 無観客

東京芸術劇場ティ・タイム・コンサート Vol.3

**出演** 西本真子(Sop)／下岡達朗(Pf)  
**曲目** ～聖なる祈りの歌～アヴェ マリア、ホワイトクリスマス、おほホーリーナイト ほか  
**料金** 入場無料  
**TEL** 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

**S** 25日(水) 13:00開演

クリスマス／アヴェ・マリア サンクトペテルブルグ室内合奏団

**出演** サンクトペテルブルグ室内合奏団  
**曲目** パッハ／グノー／アヴェ・マリア カッチーニ／アヴェ・マリア シューベルト／アヴェ・マリア パッハ／G線上のアリア ヴィヴァルディ／「四季」より冬 ほか  
**料金** 4,500円  
**TEL** 光藍社チケットセンター 050-3766-6184

**T** 26日(木) 19:00開演

都響スペシャル「第九」

**出演** エリアフ・フィンブル(Cond)／澤畑恵美(Sop)／竹本節子(M.Sop)／福井敬(Ten)／福島明也(Bar)／二期会合唱団／東京都交響楽団  
**曲目** ベートーヴェン／「エグモント」序曲、交響曲第9番「合唱付」  
**料金** S:9,000円/A:8,000円/B:7,000円/C:5,500円/Exc:2,800円  
**TEL** 都響ガイド 03-3822-0727

**U** 28日(土) 14:30開演

日本フィルハーモニー交響楽団 「第九交響曲」特別演奏会2013

**出演** 小林研一郎(Cond)／長井浩美(Org)／菅英三子(Sop)／栗林朋子(Alt)／錦織 健(Ten)／青戸 知(Bar)／日本フィルハーモニー協会合唱団／日本フィルハーモニー交響楽団  
**曲目** J.S.バッハ/トッカータとフーガBW565(オルガン・ソロ)、G線上のアリア(オルガン・ソロ) ベートーヴェン／交響曲第9番「合唱」  
**料金** S:8,500円/A:7,500円/B:6,500円/C:5,500円/＼s:3,500円/Gs:4,500円  
**TEL** 日本フィルサービスセンター 03-5378-5911

# 10.11.12

## OCT NOV DEC EVENT CALENDAR

### 東京芸術劇場ホームページ [www.geigeki.jp](http://www.geigeki.jp)

お問合せ | 東京芸術劇場  
ボックスオフィス **0570-010-296** [ 休館日を除く 10:00~19:00 ]

#### Gallery 1

10	2日(水)~6日(日) <b>無料</b> 第13回 銀粘土でつくる シルバーアクセサリーコンテスト TEL アートクレイ倶楽部 吉原 042-366-8771	9日(水)~13日(日) <b>無料</b> Gallery1・2同時開催 2013 アジア・パラアート TOKYO TEL 潮川 03-3341-0803	15日(火)~20日(日) <b>無料</b> 第7回 国際交流展 TEL 長野 03-3262-7002	23日(水)~27日(日) <b>無料</b> 第16回 「公募インテリアの書」展 TEL インテリアの書会 049-284-4311	
11	3日(日・祝)~5日(火) <b>無料</b> 日本キルンアート協会 コンクール&作品展 TEL 株式会社日本ヴォーグ社 03-5261-8265	7日(木)~10日(日) <b>無料</b> 楽書会書展 第12回東京展 TEL 加藤 080-5672-1168	14日(木)~18日(月) <b>無料</b> 第32回日本革工芸展 TEL 日本革工芸会事務局 03-5823-4203	20日(水)~24日(日) <b>無料</b> Gallery1・2同時開催 第26回東京都高等学校 文化連盟書道展 TEL 矢口 090-8443-2213	26日(火)~28日(木) <b>無料</b> 藤田久美子「キルターズスタジオ」 パッチワークキルト展 TEL 中島 0466-25-5112
12	11月30日(土)~3日(火) <b>無料</b> いけばな公募展2013 TEL いけばな公募展事務局 熊野 090-1105-1180	5日(木)~8日(日) <b>無料</b> 第32回肢体不自由児・者の美術展 デジタル写真展 TEL 吉原 03-5995-4511	11日(水)~15日(日) <b>無料</b> デザインで人生の発展と リアクション展 —隠されたデジタル陶芸師展— TEL 南雲 090-1764-8590	21日(土)~24日(火) <b>無料</b> Gallery1・2同時開催 第3回よみうり美術展 TEL よみうり美術展事務局 03-3642-4301	

#### Gallery 2

10	2日(水)~6日(日) <b>無料</b> 倉林 朗 能面作品展 TEL 倉林 080-5678-1736	9日(水)~13日(日) <b>無料</b> Gallery1・2同時開催 2013 アジア・パラアート TOKYO TEL 潮川 03-3341-0803	15日(火)~20日(日) <b>無料</b> 第7回東京カルチャーヴィレッジ 受講生展覧会 TEL 東京カルチャーヴィレッジ 多田 080-4148-1133	22日(火)~27日(日) <b>無料</b> 「サバンナを訪ねて」写真展 TEL 伊室 03-3311-9715	29日(火)~11月2日(土) <b>無料</b> 第31回 今岡紫雲英 グループ墨展 TEL 二瓶 03-3997-0797	
11	8日(金)~10日(日) <b>無料</b> 桃林書道会展 (掌中の珠書展) TEL 西村 042-425-5960	16日(土)~17日(日) <b>無料</b> デコラシオン・ド・フルール フラワー&茶箱デコレーション作品展 バラと薔薇色のとき Les Roses et le temps en rose TEL 根本 03-5996-7348	20日(水)~24日(日) <b>無料</b> Gallery1・2同時開催 第26回東京都高等学校 文化連盟書道展 TEL 矢口 090-8443-2213			
12	7日(土)~15日(日) <b>無料</b> 「つながる。陸前高田と 立教大学」交流展(仮) TEL 東京芸術劇場 事業調整係 03-5391-2116	21日(土)~24日(火) <b>無料</b> Gallery1・2同時開催 第3回よみうり美術展 TEL よみうり美術展事務局 03-3642-4301				

#### Atelier East

10	3日(木)~6日(日) <b>無料</b> カムキヤッセン展 もしもぼくがイラク人だったら TEL 展示:無料 パフォーマンスのみ:1,500円 E-mail カムキヤッセン kamuyyasse08@gmail.com	8日(火)~12日(土) <b>無料</b> 第10回 アートするの会作品展 TEL 鈴木 048-478-7735	13日(日)~16日(水) <b>無料</b> Atelier East-West同時開催 第4回 ART CONFUSE展 TEL 日本美術会 03-5842-5665	17日(木)~20日(日) <b>無料</b> DO会 第16回銅版画展 TEL 三田 03-3998-6481	22日(火)~27日(日) <b>無料</b> 第21回 銅版画展 TEL 志村 03-3939-2417	
11	10月29日(火)~4日(月・休) <b>無料</b> 写真集団「創造ネット」写真展 第8回「向かい風」 TEL 高橋 047-386-4405	9日(土)~12月8日(日) <b>無料</b> フェスティバル/トーキョー13 F/Tステーション TEL フェスティバル/トーキョー実行委員会 事務局 03-5961-5202	14日(木)~17日(日) <b>無料</b> 要WEB予約 フェスティバル/トーキョー13 ラビ・ムル工連続上演 ピクセル化された革命 TEL F/Tチケットセンター 03-5961-5209 (12:00-19:00会期中無休)			
12	11月9日(土)~8日(日) <b>無料</b> フェスティバル/トーキョー13 F/Tステーション TEL フェスティバル/トーキョー実行委員会 事務局 03-5961-5202					

#### Atelier West

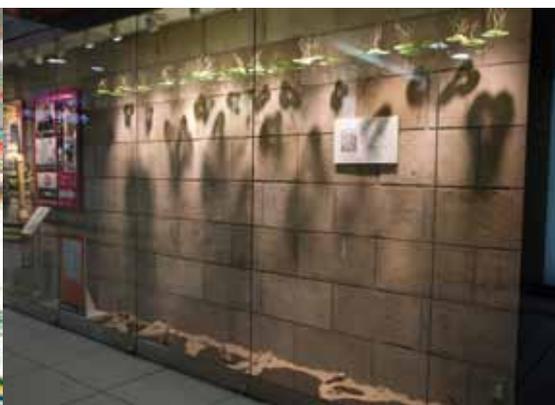
10	9月30日(月)~6日(日) <b>無料</b> 第28回 新生会展 TEL 二平 03-3933-5954	9日(水)~12日(土) <b>無料</b> 第21回 希鳳会書作展 TEL 庭野 048-479-4440	13日(日)~16日(水) <b>無料</b> Atelier East-West同時開催 第4回 ART CONFUSE展 TEL 日本美術会 03-5842-5665	17日(木)~20日(日) <b>無料</b> グループ恵展 37回展 TEL 大野 080-2007-9041	25日(金)~27日(日) <b>無料</b> ボビーの会 刺しゅう展 TEL 谷田 03-3960-8012	
11	10月29日(火)~4日(月・休) <b>無料</b> 第二回キヤノンフォトクラブ 東京DEMI写真展 TEL 石川 090-4669-1131	9日(土)~10日(日) <b>無料</b> 目白陶幻倶楽部作品展 “もてなし” TEL 目白陶幻倶楽部 03-3950-6090	14日(木)~18日(月) <b>無料</b> 第36回 清泉会書展 TEL 澤田 03-3956-6938	19日(火)~24日(日) <b>無料</b> 第六回 豊彩会展 TEL 豊彩会事務局 高橋 03-3913-3088		
12	19日(木)~22日(日) 紛争地域から生まれた演劇・5 リーディング&ラウンドテーブル TEL 有料・要事前申し込み 公益財団法人国際演劇協会 03-3478-2189					



キジマ真紀(ルミネ池袋)



キジマ真紀(池袋消防署)



新野 洋(エチカ池袋)

## 第8回新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館

# 『回遊DeArt 2013』展示レポート

会期:5月16日(木)~29日(水)

会場:ルミネ池袋、エチカ池袋、池袋消防署、東京芸術劇場

【参加作家】

磯崎真理子、稲葉友宏、キジマ真紀、桑田朋以、新野 洋

5月の心地よい季節に開催となった回遊美術館。かつての池袋モンパルナスの精神を今に受け継ぎ、文化芸術資源を次世代に伝えていくことを目的とした本企画は、今までは池袋モンパルナスの中心人物である画家「小熊秀雄」等いわば過去の作家に焦点を当てて開催されてきたが、芸術の街としての歴史を現代に伝えるだけでなく、今を生きる若手作家を巻き込み新たな池袋モンパルナスを創っていくというところで、今年より新企画「回遊DeArt」が開催されることになった。

その一回目となる今回は、アートプロデューサー北川フラム氏が総合ディレクションを行い、5名の現代作家が選ばれた。

ルミネ池袋、および池袋消防署に設置されたキジマ真紀の作品は、ポリ袋などの日用品を素材と

して制作された花や植物を模した造形作品で、そのポップな色彩や形状は展示されたルミネ池袋の商業空間と不思議な一体感をもたらし、かつ、作品の存在により空気感が変化に富む素晴らしいものであった。

また消防署会場は、あまり足を運ぶ機会の少ない場所であり、その空間に、キジマ作品が展示されたことで、場所が有機性を帯びていた。

西口のエチカ地下通路のショーウィンドウ内という限定された空間で、行き交う人々の歩行から生じる風を受け、ゆらゆらと震えていたのが、新野洋の作品である。繊細で、創造性に満ちたその作品は、新種の植物であるかのようなリアルさを通りゆく人々に感じさせてくれるものであった。

東京芸術劇場地下1Fの広いスペースであるロワー広場に配置された磯崎真理子の作品は、本

企画の中でも際立って大胆な展示であった。大地の色をコンセプトとしたロワー広場に、無数のレモン色の花が咲いたその空間は、まるで夜空に無数の星が散らばるような詩情を湛え、さらに同空間に設置された稲葉友宏及び桑田朋以の動物作品は、そこに生きる主のような佇まいで、訪れる人々をじっと見つめているようだった。

魅力的で、力のある造形作品を設置したことで、変化する空間の強度や質を感じられること自体、とてもエキサイティングだ。このような企画を通して池袋西口周辺の魅力を再認識してもらい、人々に、より愛着をもってもらえる場所として、劇場を含めた地域環境を豊かなものにしていきたいと切に思う。

東京芸術劇場スタッフ



磯崎真理子(東京芸術劇場)



稲葉友宏(東京芸術劇場)



桑田朋以(東京芸術劇場)



桑田朋以(東京芸術劇場)



photo: Dragos Dumitru

VOICE.5

キャサリン・ハンター グリン・プリチャード マルチェロ・マーニ  
普遍的な問題を映し出す『THE BEE』という鏡

去年はニューヨーク、ロンドン、香港。

今年はエルサレム（イスラエル）、ソウル（韓国）、シビウ（ルーマニア）と、ワールド・ツアーを行った『THE BEE』。

復讐の連鎖という普遍的なテーマを持つこの作品は、各地でどう受け止められたのか。

4人のキャストが、肌で感じた各地の反応を率直に語り合った。

これはわれわれの物語だ!

キャサリン 巡った国ごとに特徴があったわね。

マルチェロ それぞれアイデンティティーが強くて、カルチャーショックだったね。

野田 キャサリンが出会った、エルサレムの散髪屋の話したら?

キャサリン あれね。井戸役を演じるために、日本のサラリーマン風の髪型にしようと思って散髪屋に入ったら、いの一番に「エルサレムは初めて? この街のことどう思う?」って聞かれたのよ。

マルチェロ ダイレクトだね。



「THE BEE」English version ワールドツアー 2013  
photo: Maxim Reider

野田 エルサレムでは、いたるところで聞かれたよね、「この街、好き?」みたいに。

キャサリン 自分たちが外国でどのように受けとめられているかに、彼らはすごく敏感なのよね。

エルサレムに着いた時に配られた情報バックにも「メディアによってわが国が好意的に報道されていないことは、私たちがたいへん意識しています。しかし、きっとこの国でよい時間を過ごされることと思います」云々と書いてあった。だから散髪屋さんの質問には、とりあえず失礼にならないように「旧市街の方に出かけましたが、ほんとに何か所に驚くべき量の歴史が詰まっている場所ですね」と答えたの。そしたら散髪屋さんが言うのよ、「そう、ユニークなところなんだよ。だからみんな来たがるんだけど、ここは俺たちの街だからね」って（笑）。そしてハサミの手を止めて“なぜエルサレムは自分たちのものか”を20分くらいかけて延々と説明するの。その後、私たちは「THE BEE」を上演しに来たという話になって、請われたのでストーリーを説明した

ら、彼はその内容にすごいショックを受けたみたいで、やっとのことで「なんともハッピーなストーリーだね」って言うと、外にたばこを吸いに行っちゃった。しばらくして戻ってくると、「それからどうなったんだい?」と尋ねるので、「どうなんでしょうねえ。両者とも、自分の指を切って送りつけあったかもしれないし……。とにかく、完全なる破滅的エンディングでしょうね」と答えたんだけど、彼は、このストーリーを自分たちの状況に重ねて理解していた。これはエルサレムで私たちが会った人すべてに、当てはまる反応だったわね。

野田 終演後に、イスラエルの役者達がやってきて、間髪を入れずに「これはわれわれの物語だ」って言うんだよね。

グリン 作品のメッセージが何であるか、彼らはみな瞬時に理解していたね。曖昧なところが微塵もないこのメッセージを。「これは私たちの話だ。私たちは毎日鉛筆を折っているんだ」と言っていた。

野田 彼らは現状が変わらないことを望んでいるから、新しいものを歓迎しない傾向があるんだね。

野田 「なぜ公演場所をテルアビブにしなかったんだ」って聞かれたよね。

キャサリン 私たちが出会った演劇関係者は、ほとんどテルアビブに拠点を置く人たちだったのね。若い文化の中心地は、テルアビブなんだと。

マルチェロ イスラエルをツアーに選んだ時に、エルサレムはあまり外部からの因子を歓迎しないと聞いたので、じゃあ敢えて行くことが重要だろう、ということになったんだよね。そういうところで波紋を拡げてみたかったから。

グリン 僕はそもそも、エルサレムで上演するという考えに、疑問を呈した方だった。知り合いの中には、イスラエルは文化的にも経済的にも、国際的に排除されるべきだ、と考える人もいるからね。実際、イスラエルからの招待をボイコットした演劇人もいた。僕も、別にミュージカルとかだったら問題にはしなかったと思うけれど、今回は作品が作品だからさ。

野田 でも、そうやってみんながボイコットすると、北朝鮮のように孤立してしまうと思うんだよ。マルチェロ そういう圧力下では、かえって意固地になって凝り固まってしまうがちだからね。

野田 そう、「われわれは折れた鉛筆を送りあっているんだ」と……。

マルチェロ 演出家をしている僕の友人は、「とても直視できなかった、耐えがたかった」と言っていた。「まるで自分自身を見ているようで、痛みを感じた。それでも見続けたのは、その痛みがあまりに激しかったからだ」と。この作品は、最終的にはどちらがどうと決めることなく、あくまでひとつの疑問を提起する形で終わっている。そこは理解してくれたみたいだった。

キャサリン もうひとつ私たちが学んだのは、エルサレムの演劇状況のこと。2回公演なのに満席にならなかったことについて、現地の関係者がこう説明してくれた。エルサレムには、正統派ユダヤ教による保守的ユダヤ教教育の機関が多数あって、若い人たち向けの運動を展開しているそうなんだけど、彼らの重要な教典タルムードでは、演劇はあまりに「自由思想」寄り過ぎるとされているんですって。

マルチェロ 彼らは現状が変わらないことを望んでいるから、新しいものを歓迎しない傾向があるんだね。

野田 「なぜ公演場所をテルアビブにしなかったんだ」って聞かれたよね。

キャサリン 私たちが出会った演劇関係者は、ほとんどテルアビブに拠点を置く人たちだったのね。若い文化の中心地は、テルアビブなんだと。

マルチェロ イスラエルをツアーに選んだ時に、エルサレムはあまり外部からの因子を歓迎しないと聞いたので、じゃあ敢えて行くことが重要だろう、ということになったんだよね。そういうところで波紋を拡げてみたかったから。

グリン 僕はそもそも、エルサレムで上演するという考えに、疑問を呈した方だった。知り合いの中には、イスラエルは文化的にも経済的にも、国際的に排除されるべきだ、と考える人もいるからね。実際、イスラエルからの招待をボイコットした演劇人もいた。僕も、別にミュージカルとかだったら問題にはしなかったと思うけれど、今回は作品が作品だからさ。

野田 でも、そうやってみんながボイコットすると、北朝鮮のように孤立してしまうと思うんだよ。マルチェロ そういう圧力下では、かえって意固地になって凝り固まってしまうがちだからね。

イスラエルが強力な軍事力を有しているのも、そんな彼らの恐怖心の裏返しでしょう。

キャサリン その意味でも、今度イスラエルに公演しに行くなら、パレスチナ自治区にも行けるといいわね。

マルチェロ・グリン・野田 賛成!

イスラエルが強力な軍事力を有しているのも、そんな彼らの恐怖心の裏返しでしょう。

キャサリン その意味でも、今度イスラエルに公演しに行くなら、パレスチナ自治区にも行けるといいわね。

マルチェロ・グリン・野田 賛成!

鏡に映った自分の姿と認められるか否か

キャサリン エルサレムでは「自分たちのストーリー」として受け取られたのに対して、韓国のソウルや香港では「いかにも日本の話だね」って言われることが多かったわね。

野田 「どういところが?」と聞くと、「そうだねえ、復讐するところとか」なんて言われた（笑）。

マルチェロ それと、西洋だと暴力的な場面はそうなる手前でやめる傾向があるけど、日本はそういう場面をとことんやる、という印象があるのかもしれないね。西洋の場合は、そういったところは、かしょぶって見せようとしなから。西洋人は、自分たちが戦争を起こしてきたという歴史を忘れていくのかもしれない。

野田 西洋の拷問の歴史なんて、ひどいものなのに。

グリン 拷問どころの話じゃないよ、もう（笑）。

マルチェロ でも、それは今の自分とは無縁だと思ってるわけだよ。

キャサリン もちろんソウルや香港も、みんながみんな、同じ反応だったわけじゃないけどね。

野田 そう。「われわれの話だ」って言ってきたお客さんもいたよね。「われわれ」というのは、主に「世界中のみんな」という意味だったりしたけど。

マルチェロ シビウのお客さんは、熱狂的だったね。英語もちゃんと理解しているようだったし。

野田 終わって拍手する間もなく、走って出て行く人が多いのが特徴かな。

グリン そうだね。次の公演会場に、急いで移動しなきゃならないから（笑）。

野田 イスラエルは、エルサレムやテルアビブだけでなく、パレスチナ自治区でもぜひやりたいけど、もうひとつ、去年のニューヨーク公演は、場所がジャパン・ソサエティという、そもそも日本文化びいきのお客さんが多いところだったでしょう。日本文化=伝統芸能というらえ方は、

以前と比べればだいぶ薄らいではいるけど、やはりイメージは根強いと思う。だから今度チャンスがあったら、別の劇場でもやってみたいんだよね。

グリン キモノとか日本刀とか（と、時代劇のマネをしながら）、エキゾチックな日本のイメージを期待するのは、西洋側の問題でもあるんだよね。

マルチェロ そういう魅力だけで西洋側が日本の作品を呼びたがる、と秀樹は言うようにしているんだらうけど、ほかにも理由はあると思うんだよ。招聘側は、作品選びをする際に「これは日本固有の問題」と、内容が日本に限定されたものと断じる傾向があるんだ。でも、この作品については、それでは通らなかつた。「いや、これは全世界共通の問題です」と、眼前に突きつけてくるものがあるからね。どの国の観客も、舞台という鏡に映し出された自分たちの姿を見てしまう。そういう仕組みになっている作品だからね、「THE BEE」は。

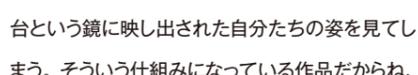
通訳:野田 学  
取材・構成:伊達なつめ

※この座談会は、次号にて編纂を掲載予定です。

今回のアイタイヒト

KATHRYN HUNTER

キャサリン・ハンター 英国王立演劇アカデミー(RADA)で学び、コンプリシテなどのフィジカルシアターからロイヤル・シェイクスピア・カンパニー(RSC)まで、さまざまなスタイルの演劇に、老若男女あらゆる役柄で登場して圧倒する、ユニークな名優。野田作品には『THE BEE』と『THE DIVER』で主演している。



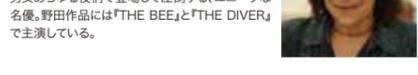
GLYN PRITCHARD

グリン・プリチャード ロンドン・リージェントパーク・オープン・エア・シアターで初舞台を踏み、以後ロンドンのナショナルシアターやキャサリン・ハンター演出の『オセロ』(RSC)など、多くの舞台・映像で活躍している。フィジカル・シアター出身ではないが抜群の身体能力を持ち、野田作品では『THE BEE』『THE DIVER』に出演。



MARCELLO MAGNI

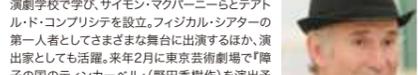
マルチェロ・マーニ パリのジャック・ルコック国際演劇学校で学び、サイモン・マクバーニーらとテアトル・コンプリシテを設立。フィジカル・シアターの第一人者としてさまざまな舞台に出演するほか、演出家としても活躍。来年2月に東京芸術劇場で『隣子の国のティンカーベル』(野田秀樹作)を演出予定。野田作品は『赤鬼』英国版、『THE BEE』などに出演。



野田秀樹 HIDEKI NODA

のだ・ひでき 劇作家、演出家、役者。1955年、長崎県出身。大学在学中に劇団夢の遊戯社結成。一大ブームを巻き起こし92年に解散。ロンドン留学を経て93年、NODA・MAPを設立。国内のみならず海外でも積極的に作品を発表。09年、東京芸術劇場の芸術監督に就任。多摩美術大学造形表現学部映像演劇学科教授。

10月4日(金)~11月24日(日) NODA-MAP 第18回公演『MIWA』  
東京芸術劇場プレイハウスにて。その後、大阪、北九州にも巡回。  
www.nodamap.com/





『シュフ ウシュフ』  
photo: Mario Del Curto

TACT/FESTIVAL 2013 13年6月6日(木)~9日(日)

## 『Chouf Ouchouf シュフ ウシュフ』プレイハウス

構想・演出・舞台デザイン: ズィメルマン エド・ペロ 構成: ディミトリ・ド・ペロ

振付: マルタン・ズィメルマン 出演: タンジール・アクロバティックグループ

劇団コープス『ひつじ』ロワー広場

演出: ダビット・ダンゾン 出演: 劇団コープス

主催: 東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)  
東京都/東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)  
\*東京文化発信プロジェクト事業

### スイス&モロッコのアート・アクロバットと、妙にリアルな羊が登場

これからのダンスの鉱脈は何か?それは「強い身体性と高い芸術性を併せ持った舞台」である。そこでヒップホップとサーカスが注目を集めているものの、後者の中でも筆頭にあげられるのが「アート・サーカス」の雄、ズィメルマン&ド・ペロ(スイス)である。マス目状に区切られた四つの部屋がグルグル回る『Hans was Heiri』など、視覚的な驚きと作品としての完成度も高く、その来日が強く望まれていた。

『シュフ ウシュフ』は彼らがモロッコのタンジール・アクロバティックグループに振り付けたもの。モロッコは古くからアクロバットの歴史がある。とくに

人が肩の上に立って何段にも重なる「ヒューマン・タワー」は、高い建物のない砂漠で遠くを見通すために古くから行われる「伝統的行為」だったという。

舞台は一見シンプルだが、高い可動式の壁が複雑に組み合わさり、刻々と形を変える。それは時に城壁にも街並みにも見える。ヒップホップ系の技なども駆使しつつ、躍動する身体の魅力が堪能できる舞台だった。

そして全編を流れていたのが、彼らの生活と切り離せない「歌」である。激しざかりではない。遠くの砂漠に陽が落ちるモロッコの人々の生活と、満天の星空が結ばれるような詩情に満ちた舞

台だったのである。

もうひとつ、ロワー広場では特設の柵が作られ、『ひつじ』が上演された。媚びず、喰い、排泄し、交わる。リアルを越えたりリアルに、大人も子供も釘付けになっていた。文: 東越たかお(作家・ヤサケ舞踊評論家)



劇団コープス『ひつじ』



撮影: 河地信彦

### Roots Vol.1 『ストリッパー物語』

13年7月10日(水)~28日(日) シアターイースト

7月31日(水) えぞこホール(仙南芸術文化センター/宮城)

8月3日(土)・4日(日) 北九州芸術劇場 中劇場

8月10日(土)・11日(日) 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 中ホール

作: つかこうへい 構成・演出: 三浦大輔

出演: リリー・フランキー、渡辺真起子、渋谷清彦、安藤 聖、古澤裕介、新田めぐみ、

米村亮太郎、門脇 麦/でんでん

主催: 東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)  
東京都/東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)  
\*東京文化発信プロジェクト事業

### 日本現代演劇史に残る戯曲への新しいアプローチ

現代演劇のルーツと考えられる60~70年代のアングラ演劇、小劇場演劇とよばれた作品群。それらの多くは、時代の刻印が強く押された独自の演出手法や個性豊かな役者達による作品群として演劇史に名をとどめている。それらの「戯曲」に注目し、今を生きる若手演出家の手で21世紀の全く新しい作品として作ってみようというシリーズが「Roots企画」。その第一弾として、つかこうへいの『ストリッパー物語』を取り上げた。口立てと言っ

て、その場で台詞を役者に合わせて作っていく演出手法を特徴とするつかさんの作品だけに、活字になっているものだけでも、小説、シナリオ、戯曲と幾つもあり、さらに『ひもの話』としても残されている題材を、劇団ポツドールを率いる三浦大輔さんに再構成してもらった。三浦さんは、スーパーリアリズム的な手法で、些細なことから追込まれていく現代の都市の若者風景を舞台化して、国際的にも高い評価を得ている気鋭の演出家。東京公

演では、つか演出との違いを細かく指摘する初演時のつか作品を見た観客も多かったが、宮城県えぞこホール、北九州芸術劇場、びわ湖ホール公演では、渡辺真起子さん演じるストリッパーとリリー・フランキーさん演じるストリッパーのひもの、奇妙な「純愛」に大きな拍手が起こるなど、新たに甦った作品として確かな手ごたえを得られた。2015年冬に予定している「Roots企画第二弾」にもご期待下さい。文: 東京芸術劇場スタッフ



エル・システマ・ユース・オーケストラ・オブ・カラカス  
指揮：ディートリヒ・バレーアス

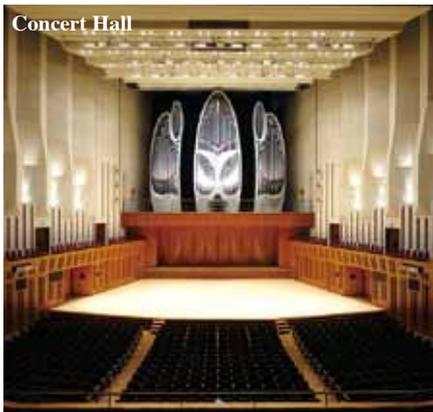
COVER PHOTO

～日本・ベネズエラ外交樹立 75 周年記念事業～  
エル・システマ・フェスティバル 2013 in TOKYO

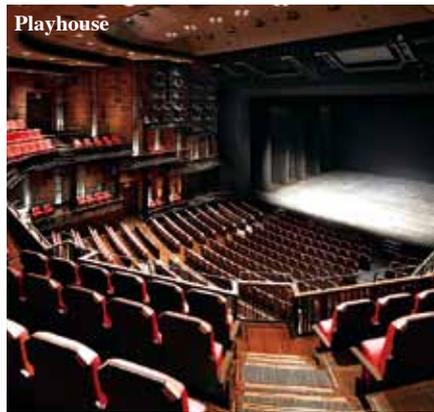
10月10日(木)～12日(土)  
東京芸術劇場コンサートホール 他

東京  
芸術  
劇場

Tokyo  
Metropolitan  
Theatre



Concert Hall



Playhouse

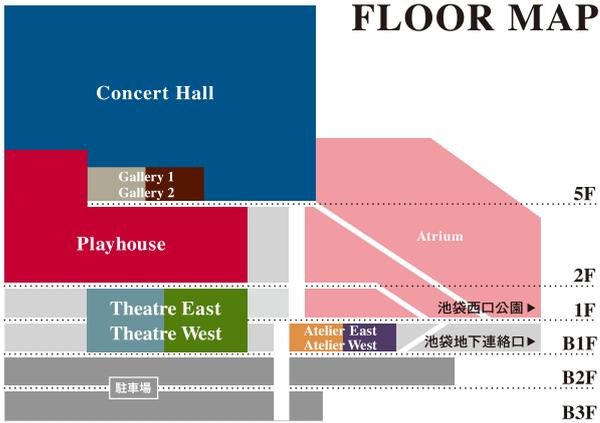


Theatre East



Theatre West

FLOOR MAP



1F 東京芸術劇場ボックスオフィス  
(チケット・総合案内カウンター)

予約 | 0570-010-296  
お問合せ (休館日を除く10:00～19:00)

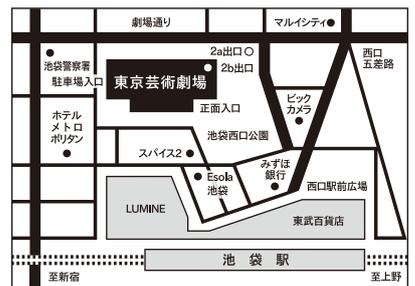
5F 芸術キッズルーム ミュース  
(託児サービス)

東京芸術劇場でご鑑賞のお客様に開演1時間前～  
終演後30分までお子様をお預かり致します。

利用料金 | 生後4ヶ月～1歳児:2,000円/  
2歳～6歳児:1,000円  
お問合せ | 03-3981-7003

B2F・B3F 東京芸術劇場駐車場

利用料金 | 300円/30分  
営業時間 | 7:00～24:00  
お問合せ | 03-6914-0019



〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1

開館時間 | 9:00～22:00 (休館日を除く)  
お問合せ | 03-5391-2111

JR、東京メトロ、東武東上線、西武池袋線池袋駅西口より  
徒歩2分。池袋駅地下通路の2b出口に直結しています。

〈東京芸術劇場パートナー企業・団体 ご芳名〉 東京芸術劇場の年間運営事業に賛同し、ご支援くださっている皆さまです。

- |                     |                    |               |                 |
|---------------------|--------------------|---------------|-----------------|
| アサヒグループホールディングス株式会社 | 株式会社 JTBコーポレートセールス | 株式会社 松田平田設計   | ソニー銀行株式会社       |
| 株式会社 資生堂            | 立教大学               | ホテルメトロポリタン    | キヤノン株式会社        |
| 明光義塾                | 丸茂電機株式会社           | 早稲田塾          | ヤマハサウンドシステム株式会社 |
| 凸版印刷三幸会             | トヨタ自動車株式会社         | 株式会社フジテレビジョン  | 株式会社 TBSテレビ     |
| レンゴー株式会社            | 西池袋熱供給株式会社         | 株式会社WOWOW     | 株式会社 松村電機製作所    |
| 東京地下鉄株式会社           | 住友生命保険相互会社         | 東京臨海熱供給株式会社   | 渡邊建設株式会社        |
|                     | 三精輸送機株式会社          | 株式会社 東京ビッグサイト | 香山壽夫建築研究所       |

(2013年9月1日現在)